

SANKYO (6417)

参考銘柄

【ホームページアドレス】 <http://www.sankyo.co.jp/>

遊技機メーカー大手、「フィーバー」シリーズで成長

群馬県桐生市に本社を置く、遊技機メーカー大手。開発力に定評があり、1980年に発売したパチンコ機「フィーバー」が大ヒット。その後も、フィーバーのシリーズ物がヒットし成長した。「フィーバー」は登録商標で、機種名に「フィーバー」を用いることができるのは、当社およびライセンス契約を結んだメーカー（関連会社Bistyなど）だけである。2006年度のパチンコ機販売台数マーケットシェア（矢野経済研究所調べ）では、三洋物産、京楽産業（ともに非公開）に次ぐ業界第3位。財務内容は良好で無借金。

08.3期業績、ヒット作連発で上方修正

パチンコ新型機の好調により、08.3期会社計画は、当初見込みに比べ売上高で400億円、営業利益で80億円とそれぞれ上方修正した。併せて、年間の1株配当も100円から150円に引き上げる。今期は、パチスロ機の規制強化で、ホール側がパチンコ機にシフトする動きもあり、パチンコ新型機種の販売増につながった。「KODA KUMI FEVER LIVE IN HALL」（7月）、「フィーバー創聖のアクエリオン」（11月）は、いずれも10万台を超えるヒットを記録した。また、第4四半期（1-3月）に投入したBistyブランドのシリーズ第4弾「新世紀エヴァンゲリオン」（1月）、SANKYOブランドの第3弾「フィーバー春のワルツ」（3月）も過去作品を上回る10万台以上の販売が見込まれる。これを受け、会社側はパチンコ機の販売計画を、従来計画の62万台から72万台に引き上げた（パチスロ機は同18万台から17万台へ下方修正）。

「フィーバー春のワルツ」に続く、大型機種投入に期待

09.3期売上高は、08.3期上期のパチスロ機の新基準機特需の反動減もあり、前期比ほぼ横ばいの2,800億円、経常利益は利益率の高いパチンコ新型機種の伸長で、同14%増の760億円を見込む。08.3期に大型新機種でヒットを続けたことから、ホール、客への信頼度は高まった。パチンコ機の販売において、SANKYOブランド復活やヒット機種の開発力で、同業他社を一歩リードするものと思われる。来期はBistyブランドで「エヴァンゲリオン」シリーズに匹敵する大型機種を複数投入する予定。今後も、シェア回復により業績を拡大する可能性は高いと考える。
(桶矢)

◇配当性向25%目標、今期末配当は50円増配の予定

[業績推移] (連結)

単位：億円、円、()は伸び率%

決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当金
07.3	1,977(▲8)	549(▲24)	585(▲23)	356(▲22)	365.3	100.00
08.3予	2,800(23)	700(40)	740(44)	440(60)	451.6	150.00
09.3予	2,800(0)	730(4)	760(3)	460(5)	472.1	150.00

◇株価は高値圏の動き、押し目狙い



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価 (2008/3/25)	6,100 円
昨年来高値 (高値日)	6,650 円 (07/1/4)
同安値 (安値日)	4,150 円 (07/8/17)
予想PER	13.5 倍
1株株主資本	3,603 円
PBR	1.69 倍
予想配当利回り (年150円で)	2.46 %
ROE	10.5 %
発行済み株式数	9,743 万株